

校長だより

和歌山市立八幡台小学校

2023.1.27

NO, 6 3

校長の雑感

本を読んで得られるのが“知識”で、“知識”が増えると話せる量が増えるでしょ。で、その“知識”を使って何をしゃべるかが“知性”であって、逆に何をしゃべらないかが“品性”だと思うの。例えば、知ってるからってベラベラなんでもしゃべるのは品がない。つまり、その“知性”と“品性”を両方兼ね備えた人こそが、“教養”のある人なんじゃないかと

(スピードワゴン 小沢一敬)

この言葉は、職業人として親として、すごく考えさせられる言葉でした。一つの例えとして、私の心にすごく刺さりました。この文章が真実かどうかは別として、この文章が指し示すことをどう受け取り今後はどうつなげていくか、これが大事な、と感じています。知識を習得する大切さは言うまでもありませんが、アウトプット、表現に関わっての示唆は、とても参考になると思っています。親として教師として、子どもたちと対面する立場の大人として、しっかり考えたいところですよ。



2年生の算数の授業の様子です。長さの学習で、1m定規や紙テープを使い、教室の中のいろいろなところの長さを図っていました。1cmや1mといった知識を得て、活動の中でそれを実感・体感して学んでいく子どもたち。こういった算数的活動は、子どもたちの「算数の世界」を拡充していくに必要不可欠です。知識と活動・経験が結び付き、「生きた知恵」になっていくともいえます。「生き抜く力」とこの言葉を私はよく使いますが、こういった「生きた知恵」をしっかりと身につけた子どもたちは、何かあった時、自分の力でその問題と向き合い、解決する方法を見つけ出してくれると信じています。